

手遊び、言葉遊びと紙芝居を組み合わせた保育から 子どもたちが学ぶもの

正 司 顯 好

What Children Learn from Songs with Gestures, Plays with Words, and Kamishibai

SHOSU Akiyoshi

キーワード：手遊び、言葉遊び、創作紙芝居、言葉の概念

1. はじめに

2017 年 10 月、本学の前徳明子准教授が紙芝居作家としてデビューした。創作紙芝居『くらべっこ くらべっこ』は童心社から出版された。第 22 回紙芝居サミット¹⁾が 9 月 16 日（土）17 日（日）の二日間にわたり本学で開催された時も、販売用に 50 種類以上の紙芝居が用意されていたが新作『くらべっこ くらべっこ』を先行販売したところ、あっという間に完売した。その後も各方面の保育者団体からの要請があり紙芝居講座をいくつか予定していたので、出版元の童心社に 50 部ほど大学に送ってほしいと連絡したら、在庫が全くないという。それでもなんとか 30 部かき集めて送ってもらった。新作発表して 1 か月後の 11 月には異例の速さで再版が検討されている。

何故、この紙芝居がこれほどまでに受け入れられるのか。この論文を通してその秘密に迫ってみたい。

2. 調査の概要

（1）調査目的

紙芝居は子どもたちに新しい言葉と感動を手渡すことのできる優れた児童文化財であるが、9 月に発売された新作紙芝居『くらべっこ くらべっこ』が子どもたちに何を手渡すことができる紙芝居なのかについて考察する。

（2）調査方法

紙芝居『くらべっこ くらべっこ』が完成するまでの創作過程の段階を含む、作者へのインタビューと具体的な作品内容の検証を行う。

（3）調査対象

新作紙芝居『くらべっこ くらべっこ』脚本・絵、まえとく あきこ

（平成 29 年 10 月 1 日初版、童心社）

（4）調査時期

平成 28 年 4 月～平成 29 年 11 月、インタビュー：平成 29 年 10 月

（5）調査内容

手遊び、言葉遊びが散りばめられた新作紙芝居『くらべっこ くらべっこ』の実演によって子どもたち

が学ぶ内容について考察する。

3. インタビューによる調査

(インタビュー)

前徳明子 埼玉東萌短期大学准教授・幼児保育学科実習センター長、紙芝居作家

(インタビューア)

正司顯好 埼玉東萌短期大学教授・幼児保育学科長

(正司) このたび童心社から紙芝居『くらべっこ くらべっこ』が出版されることになりまして誠にありがとうございます。単刀直入にお聞きします。紙芝居作家としてデビューされたわけですが、紙芝居をつくることは難しいことですか。

(前徳) はい、難しいことだと思います。紙芝居をつくるためには、その作品について、深く深く考えていく必要があります。身を削る思いをしてつくるとい話を聞きます。そうして出来上がる紙芝居だからこそ、深い意味のある作品になるのだと思います。

(正司) 紙芝居が出版されるきっかけとなったのは、紙芝居文化の会が主催する創作講座と聞いております。その創作講座に参加した時のことについて教えてください。

(前徳) 紙芝居文化の会が主催する創作講座は、6回の連続講座でした。毎回紙芝居を創作しながら講座に参加するなかで、『特別で大切な時間』と思えた3つの体験についてお話したいと思います。

1つ目は、『自分と向き合う時間』になったことです。テーマを考え、内容を決めていくなかで、自分が普段考えていることや大切にしていること、こだわり、そして、ものごととの向き合い方までも振り返ることができ、今の私にとって、必要で大切な時間だったのだと思いました。作品のなかには、そのままの自分が出てしまうのだと思います。

(正司) 2つ目の体験は、何でしょうか。

(前徳) 2つ目は、『仲間と出会えたこと』そしていろいろな考え方を知ることができたことです。それぞれの方の作品を見せていただきながら、講師の先生方からアドバイスをいただくなかで様々な考え方に触れ、自分自身に置きかえて考える時間がありました。自分の視点との違いは、新鮮であり、今後の思考の幅を広げてくれる貴重な時間でした。

(正司) 3つ目の体験は、何でしょうか。

(前徳) 3つ目は、『素敵な講師の先生方との出会い』です。私の大好きな作品に携わってくれた講師の先生方は、私の憧れの人です。

先生方からいただくアドバイスは、魔法の言葉で、創作を行なう中で何度もくじけそうになった気持ちに力を与えてくださいました。先生方の作品に対する思いや考え、視点、姿勢などたくさんのかことを学ばせていただきました。

「特別で大切な時間」を過ごし、『できあがった作品は、とても大切に愛しいものです』。

(正司) その創作講座でつくられた参加者全員の紙芝居の中から先生の作品が選ばれ、童心社から出版されることになったというわけですね。

(前徳) はい、そうです。

(正司) 先生につくられた紙芝居『くらべっこ くらべっこ』を拝見すると、お芋が登場してきますね。大きいお芋もあれば、小さいお芋もあれば、細長いお芋もある。

みんな、それぞれでいいんだよ。と、いっている。とてもシンプルな紙芝居です。そのシンプルな内容が大変観客に受けが良い。売れ行きも好調です。

(前徳) 連続講座で学んだことに、紙芝居は絵本と違って作品世界が舞台から飛び出すということがあります。そのために絵本のように細かく細かくつくるのではなく、脚本も絵もぎりぎりまで削ぎ落とさなければならぬということです。

作品については、私自身、子どもが大好きであると共に、あらゆる芋が大好きであることで題材になりました。特に、幼稚園教諭をしていた頃の芋掘りの時のいきいきとしていた子どもたちの姿を思いだしながら、つくりました。

おおきいおいもやなが〜いおいもをぬいて大喜びの子どもやちいさいおいもをだいじにだいじにもって帰った子どもたち一人ひとりの顔を今でも鮮明に覚えています。子どもたちにとって、自分のとったおいもは、どれも一番！素敵なおいもです。

おいもが一つひとつ違うように、みんなも一人ひとり違ってみんな大切な存在であることを伝えたい作品です。誰でもそれぞれの場面でチャンピオンになって輝く日が来ます！そう願って皆さんに届けていきたいと思っています。

(正司) 先生の経歴を拝見すると、お若い頃幼稚園教諭として現場で10年近く勤務されてその後結婚を経て子育てされながら大学院で学び直され研究者の世界にはいられました。そして紙芝居に出合われ、紙芝居をつくってしまったわけですが現場での経験は紙芝居づくりに役立ちましたか。

(前徳) それはもう大変役に立ちました。現場での子ども達との触れ合いがなければ、あの紙芝居はうまれなかったと思います。

(正司) 紙芝居との出会いについて、憶えていらっしゃいますか。

(前徳) 私は、現在の仕事をする中で問題を抱え、とても悩んでいる時期がありました。

その時に、その問題についてのアドバイスや解決法などではなく、私の上司が一冊の紙芝居を演じてくださいました。

その紙芝居は、「太陽はどこからでるの」脚本・絵：チョン・ヒエウです。かに、しか、さるとそれぞれの動物が自分の考えを述べている中で、最後の真実、真意を伝えるにわとりが登場するお話です。私は、この紙芝居を観ながら、今起きている自分の現状と照らし合わせ、この紙芝居から改めて学んだのです。そして、自分なりの答えを導きだすことができたのです。それは、感動的な出来事でした。

(正司) 紙芝居は人を変える力があるということを身をもって経験されたわけですね。本日は、紙芝居についての貴重なご意見ありがとうございました。

4. 考察

一般的な紙芝居を始める前には、子どもたちの関心と集中力を高める為、手遊びが導入として使われることが多い。例えば、手遊び『はじまるよ はじまるよ』（作者不明）である。最後に子どもたちの「手はおひざ」で、紙芝居が始まる。

はじまるよ ったら はじまるよ
はじまるよ ったら はじまるよ
いち と いち で 忍者さん ニン

はじまるよ ったら はじまるよ
はじまるよ ったら はじまるよ
にとにで カニさんよ チョキン

はじまるよ ったら はじまるよ
はじまるよ ったら はじまるよ
さんと さんで ねこのひげ にゃおん

はじまるよ ったら はじまるよ
はじまるよ ったら はじまるよ
よんと よんで くらげさん シュッ

はじまるよ ったら はじまるよ
はじまるよ ったら はじまるよ
ごと ごとで 手はおひざ

紙芝居『くらべっこ くらべっこ』はオリジナルの手遊び『おいものはたけ』（作：まえとく あきこ）で始まるように創られている。

なが〜いおいもバージョン

おいものはたけについたなら（※繰り返し）
うでをまくって、じゅんびして（※繰り返し）
みんなでちからをあわせるよ（※繰り返し）
うんこら、よいこら、どっこいしょ（※繰り返し）
すっぽ——ん、ぬけた（※繰り返し）
によるによる、なが〜いへびいもちゃん

ちいさいおいもバージョン（ちいさい声で）

おいものはたけについたなら（※繰り返し）
うでをまくって、じゅんびして（※繰り返し）
みんなでちからをあわせるよ（※繰り返し）
うんこら、よいこら、どっこいしょ（※繰り返し）
すっぽん、ぬけた（※繰り返し）
ころころ、ちいさいちびいもちゃん

おおきいおいもバージョン

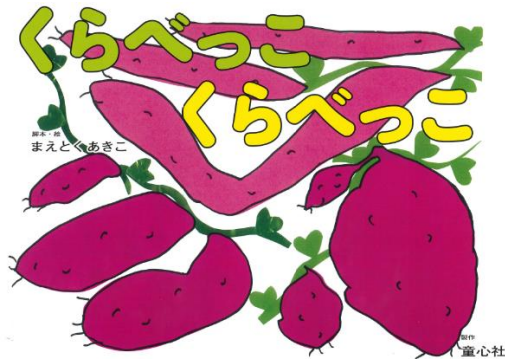
おいものはたけについたなら（※繰り返し）
うでをまくって、じゅんびして（※繰り返し）
みんなでちからをあわせるよ（※繰り返し）
うんこら、よいこら、どっこいしょ（※繰り返し）

すっつぽ——ん、ぬけた（※繰り返し）

ゴロゴロどっかーん、でぶいもちゃん

この手遊び『おいものはたけ』は、紙芝居『くらべっこ くらべっこ』と内容的に連動し音や様子を表す言葉遊びとして「にょろにょろ」「ころころ」「ゴロゴロどっかーん」等の擬声語や「うんこら」「よいこら」「どっこいしょ」等の擬態語が楽しい歌の中でリズムカルに表現されている。紙芝居を始める前の導入としては最高の演出である。

【第1場面】

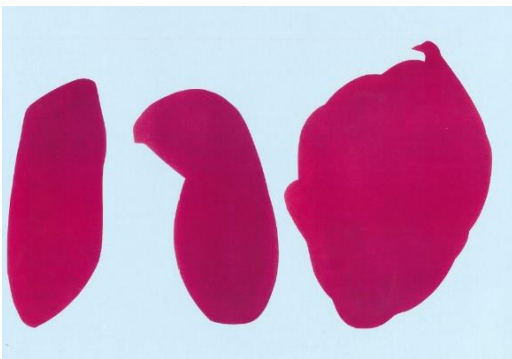


おいも、おいも、あいうえおいも
ごろごろ おおきい おいもさん
にょろにょろ なが〜い おいもさん
ちいさい ちいさい おいもさん
いろんな おいもが とれました
おおきい おいもは どれだろう
みんなで いっしょに さがそうね
ーぬくー

<考察1>

「おいも」ということばが5回登場する。「おいも、おいも、あいうえおいも」とことば遊び歌のような書き出しでこの紙芝居は始まる。「おいも」が繰り返されることで、子どもたちはこの出だしのことばに強く反応し耳を傾ける。続いて「おいもさん」ということばが3回登場する。「にょろにょろ」など楽しい擬声語がついて3種類の「おいもさん」が登場する。リズムカルでテンポが良い。そして最後にクイズ形式で「おおきい おいもは どれだろう」と子どもたちに質問を投げかけ「みんなで いっしょに さがそうね」と課題を設定する。

【第2場面】



それでは みんなで くらべっこ
おいもの おおきさ くらべっこ
♪くーらべっこ くらべっこ
おいもの おおきさ くらべっこ♪
みんな いっしょにね
いち にの さん
♪くーらべっこ くらべっこ
おいもの おおきさ くらべっこ♪
どれが いちばん おおきいの？
(みんなのこえをまって)
ーさっとぬきながらー
どっかーん

<考察2>

「くらべっこ」ということばが6回、「くーらべっこ」ということばが2回登場する。「おいもの おお

きさ」ということばが3回登場する。絵は、おいものシルエットに変わっていて「♪くーらべっこ くらべっこ おいもの おおきさ くらべっこ♪」と子どもたちが歌で参加するという観客参加型の紙芝居になっている。さらに最後は「どっか〜ん」という迫力のある擬態語が使われ次の場面に移行するため、子どもたちの集中力はさらに高まる。

【第3場面】

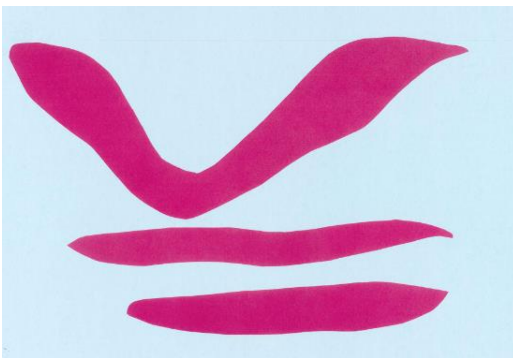


いちばん おおきい おいもさん
おおきい おいもの チャンピオン
どっかん どっかん
おおきいね
(間)
ーゆっくりぬきながらー
さて、こんどは どんな おいもかな？
なが〜い おいものが いくつ ある？

＜考察3＞

「おおきい」ということばが2回、「おおきいね」ということばが1回登場する。「どっかん」ということばが前の場面が続いて2回登場する。そして「おおきい おいもの チャンピオン」ということばで子どもたちに第1場面で投げかけた質問の答えを子どもたちと一緒に絵を見ながら確認する。さらに「さて、こんどは どんな おいもかな？」と次の課題が言葉遊びの「なぜなぜあそび」のように設定される。

【第4場面】

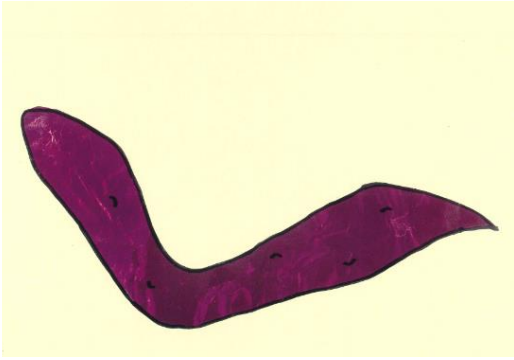


ひとつ ふたつ みっつ
おいものが みっつ でてきたね
(間)
それでは それでは くらべっこ
おいもの ながさの くらべっこ
♪くーらべっこ くらべっこ
おいもの ながさの くらべっこ♪
♪くーらべっこ くらべっこ
おいもの ながさの くらべっこ♪
どれが いちばん ながいかな？
(みんなのこえをまって)
ーゆっくりぬくー

＜考察4＞

「くらべっこ」ということばが6回、「くーらべっこ」ということばが2回登場する。「ながさの」ということばが3回、「ながいかな？」ということばが1回登場する。絵は、おいものシルエットに変わっていて「♪くーらべっこ くらべっこ おいもの ながさの くらべっこ♪」と子どもたちが歌で参加するという観客参加型の紙芝居になっている。さらに「どれが いちばん ながいかな？」と次の質問がクイズ形式で投げかけられ答えを子どもたちと一緒に探し出す。

【第5場面】



いちばん なが〜い おいもさん
なが〜い おいもの チャンピオン
によろによろ なが〜い おいもだね
(間)
さて、こんどは どんな おいもかな？
ーゆっくりぬきながらー
あれ、あれれ？ おいもが たくさん
でてきたよ

＜考察5＞

「なが〜い」ということばが3回、「によろによろ」ということばが1回登場する。そして「なが〜い おいもの チャンピオン」ということばで子どもたちに第4場面で投げかけた質問の答えを子どもたちと一緒に絵を見ながら確認する。さらに「さて、こんどは どんな おいもかな？」（この文章は2回目の登場）と次の課題が設定される。

【第6場面】

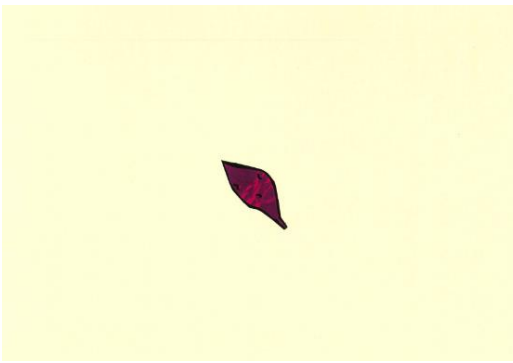


こんどは、なんの くらべっこ？
こんどは、だれが チャンピオン？
(みんなのこえをまって)
ほそ〜い おいも？ まるい おいも？
とがった おいも？
それでは おまたせ、くらべっこ
ちいさい おいもの、くらべっこ
♪くーらべっこ くらべっこ
ちいさい おいもの くらべっこ♪
どれが いちばん ちいさいの？
ーぬくー

＜考察6＞

「くらべっこ」ということばが5回、「くーらべっこ」ということばが1回登場する。「ちいさい」ということばが2回、「ちいさいの？」ということばが1回登場する。さらに「どれが いちばん ちいさいの？」と次の質問がクイズ形式で投げかけられ答えを子どもたちと一緒に探し出しながら次の場面に移行する。

【第7場面】



いちばん ちいさい おいもさん
ちいさい おいもの チャンピオン
ちいさい ちいさい おいもだね
(間)
それでは みんな そろって
ーさっとぬきながらー
ハイポーズ

＜考察7＞

「ちいさい」ということばが4回登場する。そして「ちいさい おいもの チャンピオン」ということばで子どもたちに第6場面で投げかけた質問の答えを子どもたちと一緒に絵を見ながら確認する。そして大きさの異なる3個のおいものチャンピオンが出そろったところで「ハイポーズ」でクライマックスへ移行する。

【第8場面】



きょうの おいもの チャンピオン！
おいもの つるの すてきな メダル、
いもづるメダルを もらったよ
みんなで はくしゅを してあげよ
おいもさんたち うれしそう
みんなも とっても うれしいね
あしたは どんな くらべっこ？
みんな なれるよ、チャンピオン

おしまい

＜考察8＞

「チャンピオン」ということばが2回、「メダル」ということばが2回登場する。メダルをつけたチャンピオンたちに「みんなで はくしゅを してあげよ」と子どもたちに参加を呼びかける。「おいもさんたち うれしそう」「みんなも とっても うれしいね」と拍手することでみんながハッピーな気持ちになれることを確認しながら「みんな なれるよ、チャンピオン」ということばで子どもたちに夢と希望を与えながら紙芝居の舞台は閉じられる。

5. まとめ

この紙芝居は観客参加型の紙芝居として言葉遊びの要素（手遊び、音や様子を表す言葉遊び、反対言葉遊び等）をふんだんに取り入れながら各場面が構成されているという特徴を持っている。さらに子どもたちは、いも掘り会、いも煮会、焼いも大会等いもを日常生活のなかで手にして身近に体験する機会があるので、この紙芝居に親しみを感じながら集中して見る事が出来るのである。

主人公である「おいも」ということばが各場面ごとに3回～6回登場し、楽しいリズムと言葉遊びの中で紙芝居は進行していく。「おおきい おいも」もあれば「ちいさい おいも」もあれば「なが～い お

いも」もあれば、みんなそれはそれでいいんだよ。という自己肯定感と自尊の感情を育てる温かいメッセージが込められ「おいも」を通して見事に子どもたちに手渡している。

毎日新しい言葉を獲得していく2歳児から3歳児については、この紙芝居によってモノの大きさの概念を瞬時に獲得する機会に恵まれることになる。「おおきい おいも」「ちいさい おいも」「なが〜い おいも」と物差しの尺度を瞬時に獲得してしまうのである。目で絵を見ながら、耳で言葉を聞きながら、口で今聞いた言葉をその場で繰り返しながら子どもたちは言葉を獲得していく。紙芝居を見終った後、ある2歳児に大きさの違う二つのボールとバットを並べて見せながら「おおきい ボールは?」「ちいさい ボールは?」「なが〜い バットは?」と聞いてみたが間違えることなく見事に答えたのである。

この紙芝居を見ることによって子どもたちが新しい言葉を獲得する瞬間がある。内容的にも子どもたちに感動を手渡すことのできる良質の紙芝居の誕生である。

注

1) 第22回紙芝居サミット

(日時) 2017年9月16日(土)17日(日) 午前10:00～午後5:00

(場所) 埼玉東萌短期大学

(主催) 第22回紙芝居サミット実行委員会

(後援) 文化庁、埼玉県、越谷市、埼玉県教育委員会、越谷市教育委員会、全埼玉私立幼稚園連合会、埼玉県保育協議会、埼玉県文化団体連合会等

参考文献

紙芝居文化の会(2017)『紙芝居百科』童心社

まついのりこ(1998)『紙芝居・共感のよろこび』童心社

正司顯好 (埼玉東萌短期大学教授)

